

クローズアップ

地方の公共交通再生の切り札として、長大と子会社の順風路（東京都北区）が実用化を進める予約制の乗り合い交通システム「コンビニクル」に期待が集まっている。東大が開発したオンデマンドバスシステムを利用し、導入から運行までパッケージで提供する新たな公共交通サービスだ。データセンターのサーバーで瞬時に正確にバスなどの運行時間を計算。利用者は予約した時間通りに、好きな場所から好きな場所へと移動できる。オペレーターが不要な上、ASP（アプリケーション・サービス・プロバイダー）を活用するため大幅なコスト削減が可能だ。財政難と路線バス事業の赤字に悩む自治体の関心は高く、問い合わせも相次いでいるという。

東大がシステム開発 長大と順風路が実用化

「ゆとり時間」内で次の予約に対応

「コンビニクル」は経済的で利用性の高い予約制の乗り合い交通システムだ。東大大学院の新領域創成科学研究科の大和裕幸教授（人間環境学専攻）の研究室が開発したオンデマンドバスシステムに、長大のシステム管理や地域計画、事業マネジメントなどのノウハウを加味し、実用化を進めている。

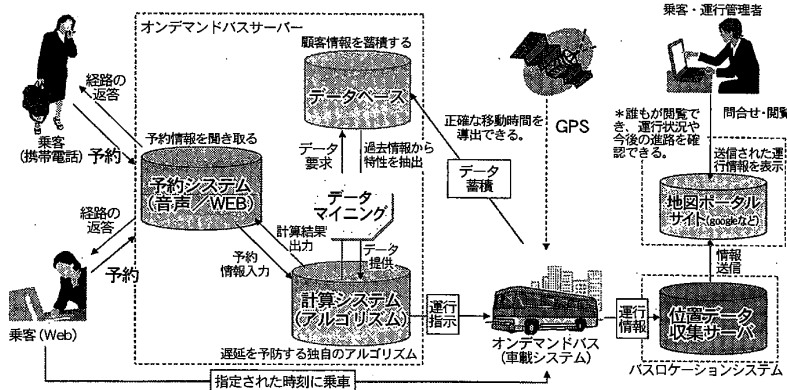
背景には、02年の道路運送法改正に伴って、路線バス廃止の自由化がある。多くの自治体が共同採算路線を撤退させて、代替公共

地方の公共交通再生へ

交通システムとして「コンビニクル」バスやデマンドバスを導入しているものの、約束した運行時間を守れず、システム的にも高コスト構造にあるため赤字解消には至っていない。地方財政がますます悪化する中、地方公共交通再生の手だてが求められていた。

東大が開発したシステムは▽電話やパソコンによる自動予約システム▽顧客・地域情報を蓄積するデータベース▽バスの運行計画を作成する計算システム

予約制「コンビニクル」 乗り合いシステム



自動予約とASP活用で
大幅にコスト削減

パッケージで
サービス提供

これまでのオンデマンドバスシステムでは、予約の受け付けと配車処理を行う熟練オペレーターが必要だったが、コンビニクルを活用すれば自動予約となるため、人件費を大幅に削減できる。

また、ASPによりデータセンターのサーバーを共用することで、自治体がそれぞれサーバーをシステム一式を購入する必要もなく、システムの初期費用を従来の10分の1程度に抑えることも可能という。データセンターは長大の子会社である順風路に置く。システムの運用にあたっては、ASPのサービス料が発生するが、システムのメンテナンス費用も含んでおり、従来のように自治体が独自にシステムの更新やメンテナンスを行うのに比べれば、大幅に運営コストも削減できる。

ビニクル導入の目的やサービス水準、自治体の負担費用の範囲などを明らかにしなければならず、長大では建設コンサルタントのノウハウを生かし、導入可能性調査などのサービスも行う考えだ。地域の利用者ニーズや他の交通機関の運行状況を確に把握した上でシステムをカスタマイズし、事業のスキームや範囲を面する必要がある、こうしたサービスもパッケージで提供する。

自治体またがるなら
SPC設立も

粟仙市（長崎県）と柏市（千葉県）ではコンビニクルの実証実験を実施済みだ。特に柏市では、既に6回にわたって中型バスとタクシーを使った「R」柏駅までの乗り継ぎ実験などが行われ、実用化への関心が高いといえた。

民間病院の送迎バスやスクールバスへのシステムの応用も想定され、こうした民間交通機関と連携できれば、地域交通の効率性を向上させることも可能。複数自治体にはまだかつてコンビニクルを運用する場合には、SPC（特別目的会社）を設立し、SPCと契約した民間企業が事業を運営するケースも想定されている。

地方の公共交通再生の切り札として実用化の可能性を秘めているだけに、自治体の関心は高い。1月28日に東大柏キャンパス千葉県柏市で開かれたオンデマンドバスのカンファレンス（会議）には全国の自治体や民間企業が約110人が参加し、コンビニクルの説明に耳を傾けた。